

今月の技術対策 (畑作編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

水稲・園芸編も
HPで公開中!

【春まき小麦】

1 赤かび病を中心とした防除

本年は生育が進んでいるため、すでに「開花始」となり赤かび病防除を開始したほ場も多いと思われます。赤かび病防除は「開花始」と「その7日後」、「開花始から14日後」の3回防除が基本となります。防除のタイミングを逸しないよう、今後の生育状況を十分確認して防除を実施しましょう。

～農薬使用時にはラベル等で登録内容を確認願います～

表 春まき小麦の赤かび病防除を中心とした防除体系例

(水量100 L/10a散布)

時期	薬剤名	使用倍率	使用回数	使用時期
開花始 【必須】	シルバキュアフロアブル	2,000倍	2回	収穫7日前まで
	または リベロ水和剤	2,000倍	3回	収穫7日前まで
7日後 【必須】	ベフトップジンフロアブル	800~1,000倍	1回	収穫14日前まで
	または ベフラン液剤25	1,000倍	1回	収穫14日前まで
開花始から 14日後 【必須】	シルバキュアフロアブル	2,000倍	2回	収穫7日前まで
	または リベロ水和剤	2,000倍	3回	収穫7日前まで

※葉枯症の発生が懸念される場合(開花期の降水量が多い、過繁茂、連作で昨年多発)には、開花始(1回目防除)にバラライカ水和剤(DMI・7刈イソト混合剤)を使用する。

※赤かび病防除でベフラン液剤25、チルト乳剤25を使用する場合には1,000倍使用が望ましい。

※イミノクタジンの成分を含む農薬(ベフトップジンフロアブル、ベフラン液剤25)は、出穂期以降の使用回数が1回なので注意。

—春まき小麦「春よ恋」のフレッケンについて—

「春よ恋」では、止葉抽出後に葉先が黄化し、ほ場全面で目立つ場合があります。

この症状は『フレッケン』といい、「春よ恋」の遺伝的な品種特性です。

葉の黄化やねじれが見られますが、直接的な減収はありません。



【麦類共通】

麦類は平年に比べ早く成熟期を迎える見込みです。次の点に注意して収穫準備、収穫作業を進めましょう。

1 アブラムシ類防除

発生は出穂10～20日後から急増します。寄生穂率が45%を超えると減収するので、寄生穂率が30%となったら防除準備をしましょう。

表 アブラムシ防除薬剤例 (使用時にはラベル等で登録内容を確認願います)

薬 剤 名	使用倍率	使用回数	使用時期
スミチオン乳剤	1,000倍	1回	収穫7日前まで
エルサン乳剤	1,000倍	4回	収穫7日前まで

2 なまぐさ黒穂病発生状況の確認(秋まき小麦・春まき小麦の初冬まき)

なまぐさ黒穂病に汚染された小麦はなまぐさい異臭を発生し、収穫作業により健全粒に付着するため、収穫物全体の品質低下につながります。また、これら収穫物が乾燥施設に持ち込まれ混入した場合には、サイロ全体が汚染され廃棄となることが考えられます。

留萌管内では未発生ですが、収穫前にほ場確認を十分に行い、早期発見による被害防止を徹底しましょう。ほ場で発見した場合や、収穫中に異臭を感じた場合には、直ちにJAへ連絡して下さい。

3 収穫準備

- (1) コンタミ防止のためコンバインや運搬車輛の清掃の徹底と整備を十分に行いましょう。
- (2) ほ場内を観察し、異品種麦等の抜き取りや倒伏や病害、雑草の発生状況を把握します。
- (3) 収穫作業に影響しないよう、ほ場周辺雑草の除去や取付道路の整備等を行いましょう。

4 収穫作業

- (1) ほ場をよく確認し、子実水分が30%以下となったら収穫を開始します。
- (2) 試し刈りを行い、損傷粒や未脱がないようコンバインを調整します。
- (3) 倒伏・穂発芽・赤かび病などの異常麦は別刈りとし、正常な小麦への混入を避けます。
- (4) 高水分小麦は、異臭麦発生の原因となるので長期堆積(3時間以上)を避けましょう。

【大豆】

1 中耕(着蕾までに終了!)

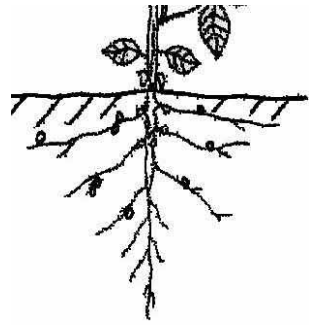
- (1) 着蕾以降に中耕すると断根が多くなり、落花や落莢の要因となるので、最終の中耕は着蕾までに終了しましょう。
- (2) 培土を行う場合には、汚粒軽減のため低めの培土とします。

2 追肥（開花時期に判断）

- (1) 生育後半に根粒菌の活性が劣るほ場では、7月中～下旬の「開花期」頃に窒素量 5 kg/10a程度を施用します。
- (2) 水田転換畑では、大豆初作の場合や透水性が不良な場合、開花期の根粒菌着生数に基づき追肥の要否を判断します。

〈追肥量〉～5株程度確認～

- ・ 1個体当たり根粒着生数が10個以上の場合、追肥は不要。
- ・ 1個体当たり根粒着生数が10個未満の場合、開花期に窒素量10kg/10a程度追肥。



掘り上げて根粒菌を確認！

本格的に収穫作業が始まります。
作業中は適度な休憩・休息を取り、農作業安全に努めましょう！

平成31年1月より“**収入保険制度**”が始まっています！

詳しくは、お近くの農業共済組合へお問い合わせください。